

第3回県立中部病院将来構想検討委員会部会

1 日 時 令和5年10月20日(火) 14:00-16:40

2 場 所 県庁11階 第1・2会議室

3 議事次第

(1) 県立中部病院が担うべき役割・医療機能、病床数について

(2) 県立中部病院南病棟及び本館等の現地建替整備パターンについて

4 議事要旨

(1) 報告

第2回県立中部病院将来構想検討委員会部会で質問のあった、車通勤の職員数や職員駐車場の確保台数、県立中部病院の救急からの入院転帰率、平均在院日数について、報告を行った。

(2) 県立中部病院が担うべき役割・医療機能について

県立中部病院が担うべき役割・医療機能について、今回は周産期医療、在宅医療、救急医療等について議論を行った。また、以下の意見があった。

- ・周産期医療は産科部門と新生児科部門がある。これらの両輪で検討していく必要がある。
- ・働き方改革等の兼ね合いで人材確保・育成が重要である。医師育成及びタスクシェアをしていく助産師の育成の機能を担う必要がある。
- ・がんの末期を自宅で看取りたいという患者の増加が見込まれ、疼痛管理のニーズが増えてくる。一方で、高齢者の在宅医療に対する機能を直接的に県立中部病院が担う必要があるのかについては、疑問が残る。
- ・在宅に繋ぐ仲介的な医療を県立中部病院として担う必要があると考える。
- ・救命救急センターのコンビニ受診的な利用には問題がある。患者に対し、適正利用の啓発活動が必要である。
- ・重症度の高い小児救急医療を提供する代わりに一次救急の機能は他施設で担う方向性が望ましい。
- ・小児科医の育成に関しては、琉球大学病院と南部医療センターが中心となる方向性が望ましいと考える。
- ・救急・在宅・小児分野において、クリニックの休日・夜間対応の体制が他県と比べ弱く、急性期医療機関に負担がかかってしまうような状況である。今後どのような体制を構築していくかについて、行政からの支援も受けながら、対応していかなければならない。

- ・がん薬物療法専門医は、今後琉球大学と連携しながら、医師の確保・育成を図っていく必要がある。
- ・今後、透析医療の提供における課題に関しては、県全体として議論を行う必要がある。
- ・看護学生の実習施設としての機能は継続していただきたい。

(3) 県立中部病院南病棟及び本館等の現地建替整備パターンについて

中部病院の南病棟及び本館等の現地建替整備について説明を行った。また、以下の意見があった。

- ・中部病院は、引き続き災害拠点病院としての機能を備える必要がある一方、基幹災害拠点病院を担うかどうかは、慎重に議論を進める必要がある。
- ・現地建替え以外の考え方は難しいと考える。これから土地を取得して建設するとなるとスケジュール面でリスクが大きい。また、広大な一団の土地を安価で確保する方策はないと考える。現地建替えを真剣に考えたほうがよい。
- ・移転新築の検討も行った上で、現地建替えの検討を行ったという資料構成にすべきではないか。
- ・工事期間中の医療機能の制限面に考慮した建設計画が検討されるべきである。
- ・現地で機能が収まるのであれば、現地建替えで問題ないと考える。本館は建設後 22 年しか経っていないため、本館は改修して継続利用すべきと考える。

第3回 県立中部病院将来構想検討委員会部会出席者

氏名	役職	備考
玉城 和光	中部病院 院長	対面形式
諸見里 真	病院事業局 病院事業統括監	対面形式
中矢代 真美	病院事業局病院事業企画課 医療企画監	対面形式
徳嶺 恵美	病院事業局病院事業企画課 看護企画監	対面形式
天願 俊穂	中部病院 副院長（医師）	対面形式
本仲 寛美	中部病院 副院長（看護師）	対面形式
仲本 利江	土木建築部施設建築課 課長	対面形式
古堅 宗一郎	保健医療部医療政策課 課長	対面形式
宮里 達也	沖縄県医師会 副会長	対面形式
梅村 武寛	琉球大学病院 副院長	欠席
知花 敬	中部地区医師会 事務局長	対面形式
吉田 智枝美	沖縄県看護協会 常任理事	対面形式
座喜味 保	中部市町村会 事務局長	対面形式
武岡 光明	沖縄県建築士事務所協会 会長	対面形式